

平成26年度の委員会運営方法について

【調査・研究テーマ案】

生涯スポーツを通じた健康づくりの取り組みについて

(テーマ選定理由)

横浜市は、4つのプロスポーツチームの拠点であり、世界トライアスロンシリーズ横浜大会や横浜国際女子マラソン大会など、数多くの国際大会が開催されるとともに、2020年には東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まるなど、市民のスポーツに関する関心は今まで以上に高まっている。また、超高齢社会を迎える中、スポーツや運動を通じてあらゆる世代の健康づくりを進めていくことは本市において大変重要な施策の一つとなっており、こうした状況を踏まえて本特別委員会が本年度設置されている。

あらゆる世代の健康づくりを進めていくためには、行政の取り組みや地域スポーツにおける健康づくりの現況等を把握することが必須であり、本委員会の初年度として、行政及び議会としての役割を再認識するべく、各ライフステージを通じた生涯スポーツによる健康づくりの取り組みについて、事例の検証、現地視察や専門家からの意見聴取などを行い、調査・研究を行う。

健康づくり・スポーツ推進特別委員会 説明内容

調査・研究テーマ：生涯スポーツを通じた健康づくりの取り組みについて

●育ち・学びの世代

【所管局：教育委員会／市民局】

目標1 子どもの体力向上方策の推進

- ・学校・家庭・地域の連携による体力向上に向けた取り組み（取組2）
【教育委員会】
- ・子どもの体力向上事業の実施及び拡充（取組3） 【教育委員会／市民局】
- ・部活動を含めた学校体育の取り組み 【教育委員会】
- ・学校開放に関する取り組み（取組5） 【教育委員会】

●働き・子育て世代（育ち・学びの世代及び稔りの世代含む）

【所管局：市民局／教育委員会】

目標2 地域スポーツの振興

- ・学校開放に関する取り組み（取組5 再掲） 【教育委員会】
- ・地域スポーツ団体や地域スポーツ・レクリエーション団体の取り組み
（取組11・13） 【市民局】
- ・スポーツ推進委員の取り組み（取組15） 【市民局】
- ・体育協会の取り組み 【市民局】
- ・トップスポーツの取り組みの一貫としての女子スポーツの支援 【市民局】

●稔りの世代及び障害者

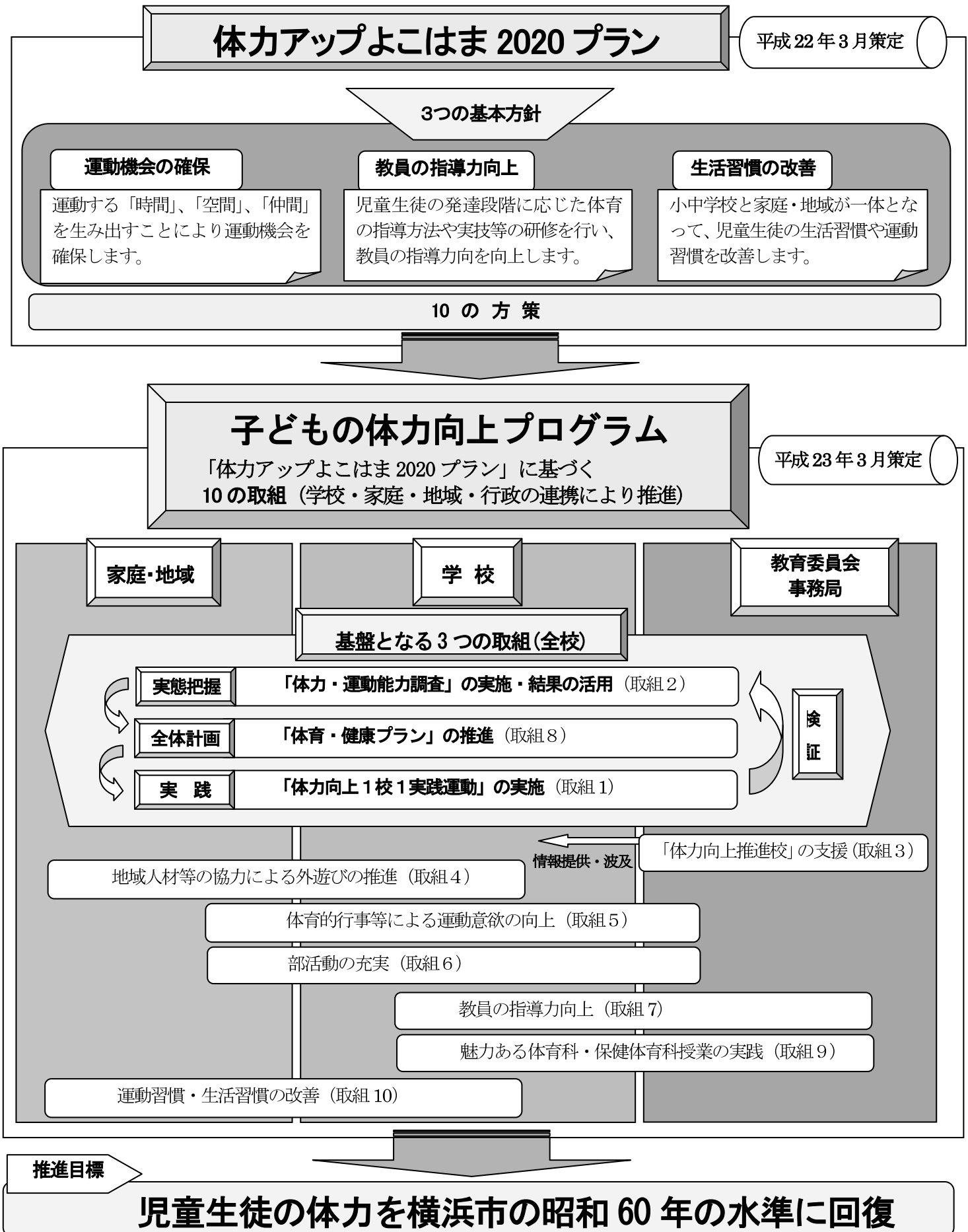
【所管局：健康福祉局／市民局】

目標3 高齢者・障害者スポーツの推進

- ・地域スポーツ団体や地域スポーツ・レクリエーション団体の取り組み
（取組11・13再掲） 【市民局】
- ・100万人の健康づくり戦略の推進（取組24） 【健康福祉局】
- ・高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施（取組25） 【健康福祉局】
- ・地域の高齢者サークルの活動支援（取組26） 【健康福祉局】
- ・障害者スポーツに関する取り組み（取組27～29） 【健康福祉局】

※目標及び取り組みについては横浜市スポーツ推進計画該当部分を記載

取組2 「横浜市子どもの体力向上プログラムに基づく取組の実践」について



< 「体力・運動能力調査」の概要 >

1 調査の名称

平成 25 年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査

2 実施対象

市立小中学校全校児童生徒（約 27 万人）対象（平成 25 年 4 月～7 月実施）

3 調査項目

○体格

身長、体重、座高

○新体力テスト

握力、上体起こし、長座体前屈、
20mシャトルラン(※)（中学校は持久走との選択）、
50m走、反復横跳び、立ち幅跳び、
ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）

(※) 20mシャトルラン：時間制限がある中で、20m間隔の線の間を往復した回数



上体起こし



長座体前屈

○生活実態調査

運動部や地域スポーツクラブへの所属状況、
運動やスポーツの実施状況、
1日の運動・スポーツの実施時間、
朝食の摂取状況、
1日の睡眠時間、
1日のテレビの視聴時間、
1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間

4 データ抽出 小中学校 各学年 男女各 20 名ずつ（約 3 割）

小学生男子 38,142 名、小学生女子 38,128 名
中学生男子 7,876 名、中学生女子 7,911 名

各校が作成する「体育・健康プラン」例

平成〇〇年度 〇〇学校 体育・健康プラン

【中期学校経営方針「健やかな体」達成目標】

◎保護者の理解のもと「早寝、早起き、なわとび」を推進し、体力向上1校1実践運動の「なわとび」を通して、体力向上

中期学校経営方針「健やかな体」達成目標を転記します

<児童生徒の体育・健康面の姿>

- ・全国平均や市平均に比べ…
- ・朝食の摂取率が高く、…
- ・保健室の利用状況は、…
- ・地域に外遊びができる空間が…

体力・運動能力調査や各種健康診断の結果、出欠状況や保健室の利用状況、部活動や地域スポーツへの参加状況等、体育・健康面の児童生徒の状況を把握します

<体育・健康に関する指導の目標・方針>

- ◎ 自己の健康や運動とかかわりを
- ◎ 進んで運動する楽しさや…
- ◎ 自分のよさや可能性を…

把握した児童生徒の状況を踏まえ、各学校での体育・健康に関する指導の具体目標や方針を決定します

教科

《**体育科・保健体育科での取組**》
・(保健)体育科では、〇〇領域を重点領域とし、…

体育科・保健体育科で、重点的に取り組む内容を示します

《**他教科での取組**》
・家庭科では、食教育と関連を図り…

体育科・保健体育科以外の教科での体育・健康に関する指導の主な取組を示します

道徳・特活・総合

・運動会では、(保健)体育科で培った資質能力をさらに発展させ、…
・保健委員会では、児童生徒の健康面での課題を…

道徳、特別活動、総合的な学習の時間にかかわる体育・健康に関する指導の主な取組について示します。健康安全・体育的行事や委員会活動、『横浜の時間』における横浜の教育課題（健康・安全・食）や学校における食育の全体計画との関連を示すことができるとよいでしょう

課外活動

- ・運動部活動の推進
- ・給食後の歯磨き活動…《関連》

運動部活動（特別クラブ）や地域と連携を図った取組、学校保健委員会や食育、保健指導など、上記以外の体育・健康に関する指導の取組について示します

平成26年度 〇〇学校 体力向上1校1実践運動

《**名称**》体育行事の充実

《**ねらい**》運動の機会の確保、教員の指導力

体力向上に向けた系統性を明確にした、具体的(継続的)な取組を《**名称**》《**ねらい**》《**内容**》で示し、学校ホームページに掲載します

《**内容**》体育的行事を体育委員会(児童・生徒)が企画・運営し、内容と取組の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、体力の向上を図る。

行事例)前期:球技大会、後期:運動会(体育祭) *なわとび大会、マラソン(駅伝)大会

●**指標**:①行事後の振り返り「事前取組」「満足度」

②生活実態調査「運動やスポーツの実施状況」「1日の運動・スポーツの実施時間」

*「体育・健康」は、学校全体の体育・健康に関する指導の全体計画であり、体力向上の取組である「体力向上」はその一部です。

実効性のある(成果の確認できる)取組となるよう、指標を設定し、経年変化に注目します

市立中学校部活動状況（部数・部員数）

1 年度別部活動加入割合

年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度	
学校数		146校		147校		148校		147校	
生徒総数		人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%	人数(人)	%
		76,964	100%	79,458	100%	80,637	100%	81,512	100%
部活動加入数		64,504	83.8%	68,397	86.1%	68,019	84.4%	69,350	85.1%
内訳	運動部	47,615	61.9%	49,844	62.7%	49,607	61.5%	50,559	62.0%
	文化部	16,889	21.9%	18,553	23.3%	18,412	22.8%	18,791	23.1%

2 平成25年度 種類別部活動数及び人数

部活名	部員数			部数	部活名	部員数			部数
	男	女	計			男	女	計	
軟式野球	4,770	39	4,809	143	男子柔道	600	0	600	45
女子ソフトボール	0	663	663	35	女子柔道	0	171	171	37
男子バレーボール	741	0	741	38	男子陸上競技	3,198	0	3,198	112
女子バレーボール	0	3,179	3,179	123	女子陸上競技	0	2,050	2,050	112
男子バスケットボール	3,803	0	3,803	145	男子水泳	1,122	0	1,122	52
女子バスケットボール	0	3,024	3,024	145	女子水泳	0	471	471	52
サッカー	6,734	70	6,804	140	男子体操	43	0	43	9
男子硬式テニス	381	0	381	14	女子体操	0	129	129	9
女子硬式テニス	0	491	491	17	新体操	0	182	182	12
男子ソフトテニス	3,418	0	3,418	85	ダンス	0	168	168	4
女子ソフトテニス	0	3,424	3,424	101	体育バトン(女子)	0	35	35	1
男子卓球	2,352	0	2,352	83	男子ハンドボール	546	0	546	19
女子卓球	0	638	638	59	女子ハンドボール	0	232	232	12
男子バドミントン	1,892	0	1,892	86	男子空手	4	0	4	1
女子バドミントン	0	3,614	3,614	103	女子空手	0	3	3	1
男子剣道	1,421	0	1,421	97	ラグビー	34	2	36	2
女子剣道	0	914	914	94	その他(アイススケート)	0	1	1	1
(種目数: 21種目)					合計	31,059	19,500	50,559	1,989

平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査の結果

学年が上がるほど走る力が向上！投げる力が課題

1 特徴

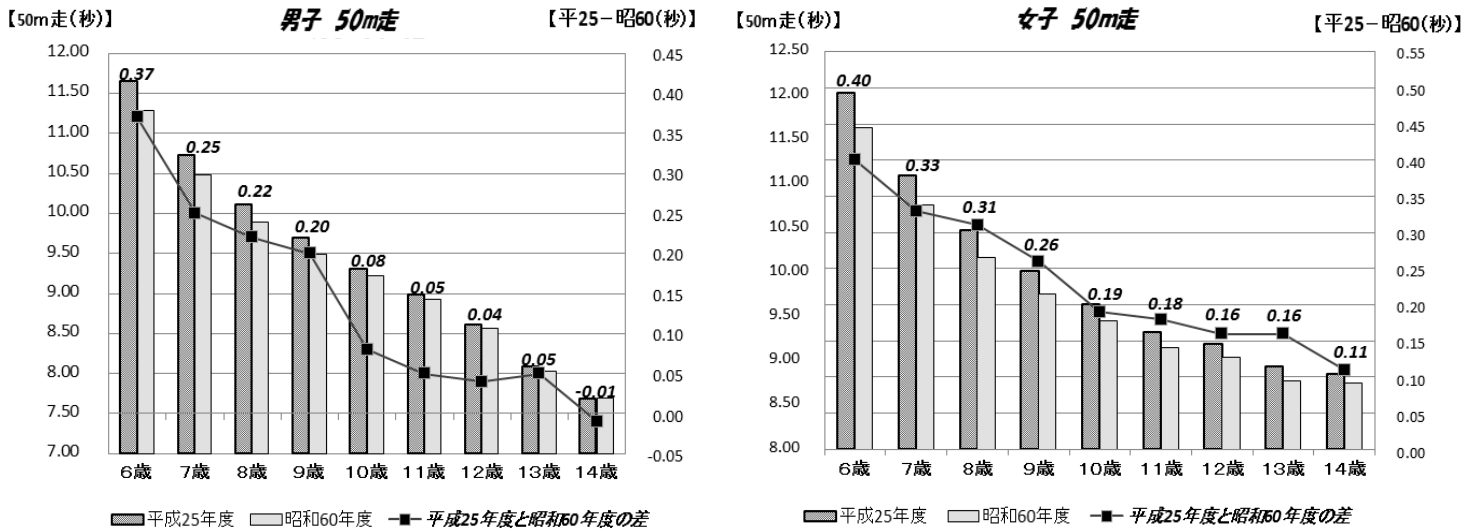
(1) 本市が目指している昭和60年度*との比較

50m走などについては、学年が上がるに従って値の差が縮まる傾向にあり、小中学校を通して走力が着実に高まっている。

《差が縮まった種目》50m走、持久走
《差が広がった種目》握力、立ち幅跳び

※「体力アップよこはま2020プラン」において、児童生徒の体力を本市のピークであった昭和60年度の体力水準に回復することを目標としている。

50m走・平成25年度と昭和60年度の比較

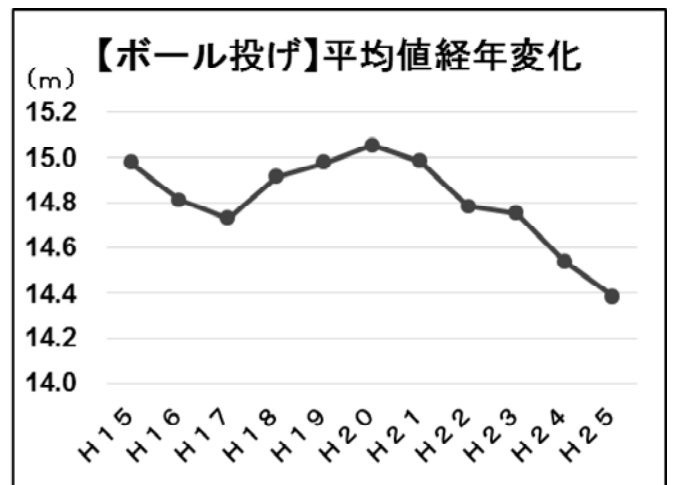
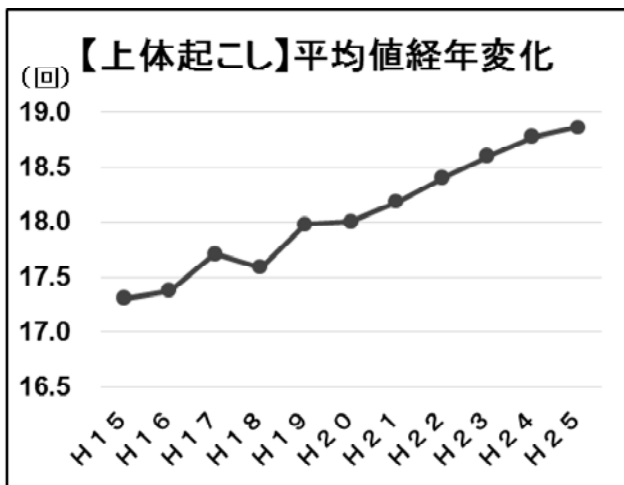


(2) 過去10年間の経年比較

小1から中3までの男女全てを含めた平均値は、上体起こしなどは上昇傾向にある。各学校が授業改善や「体力向上1校1実践運動」などの取組を行い、運動機会の確保や運動意識を高めてきた成果といえる。一方で、ボール投げなどは低下傾向にある。引き続き、実践の充実を図る必要がある。

《上昇傾向種目》上体起こし、長座体前屈、反復横跳び、50m走、
20m シャトルラン（中学校は持久走との選択）

《低下傾向種目》握力、ボール投げ



2 調査結果の概要

※全国平均は、小学校5年生、中学校2年生以外の本年度の結果が未公表のため、
全学年前年の数値を使用

(1) 体格

児童生徒の体格の平均値は、**男女とも全国平均とほぼ同水準**にある。男子は小学校1年生から3年生まで身長、体重ともに上回っている。女子の体重は、すべての学年でわずかながら全国平均を下回っている。

項目			小1 (6歳)	小2 (7歳)	小3 (8歳)	小4 (9歳)	小5 (10歳)	小6 (11歳)	中1 (12歳)	中2 (13歳)	中3 (14歳)	
男子	身長 (cm)	横浜市	25年	116.90	122.71	128.48	133.76	139.02	145.03	152.57	159.77	165.41
		全国	24年	116.54	122.36	128.07	133.84	139.11	145.03	152.89	160.13	165.36
	体重 (kg)	横浜市	25年	21.27	23.80	26.91	30.14	33.51	37.50	43.23	47.85	53.21
		全国	24年	21.15	23.80	26.58	30.33	33.72	37.90	43.28	49.25	53.96
女子	身長 (cm)	横浜市	25年	115.84	121.66	127.49	133.67	140.12	146.19	152.08	154.97	157.05
		全国	24年	115.83	121.52	127.78	133.68	140.28	146.88	151.99	155.05	156.66
	体重 (kg)	横浜市	25年	20.71	23.22	26.15	29.48	33.44	37.69	42.99	46.00	48.96
		全国	24年	20.73	23.37	26.39	29.84	34.00	38.73	43.49	46.71	49.36

(2) 新体力テスト

「体力合計点」は、本市の24年度と比較すると若干下回っている学年もあるが、ほぼ横ばいである。
全国との比較では、全ての学年で下回っている。

項目			小1 (6歳)	小2 (7歳)	小3 (8歳)	小4 (9歳)	小5 (10歳)	小6 (11歳)	中1 (12歳)	中2 (13歳)	中3 (14歳)	
男子	体力合計点	横浜市	25年	28.47	35.18	41.16	47.05	52.62	57.63	31.97	40.49	46.75
		全国	24年	28.03	35.11	41.53	47.24	52.96	57.98	32.21	40.53	46.79
		全国	24年	30.51	37.71	44.11	49.86	55.89	61.88	34.98	43.86	50.56
	体力合計点	横浜市	25年	28.14	35.11	41.11	47.12	52.41	56.89	39.63	45.67	48.85
女子	体力合計点	全国	24年	27.78	35.16	41.39	47.03	52.68	57.59	40.29	46.28	48.87
		全国	24年	30.45	38.42	44.20	50.20	55.48	62.00	43.88	50.58	52.72

※体力合計点：8種目の新体力テスト成績を1点から10点に得点化して総和した新体力テストの合計得点

(3) 生活実態調査

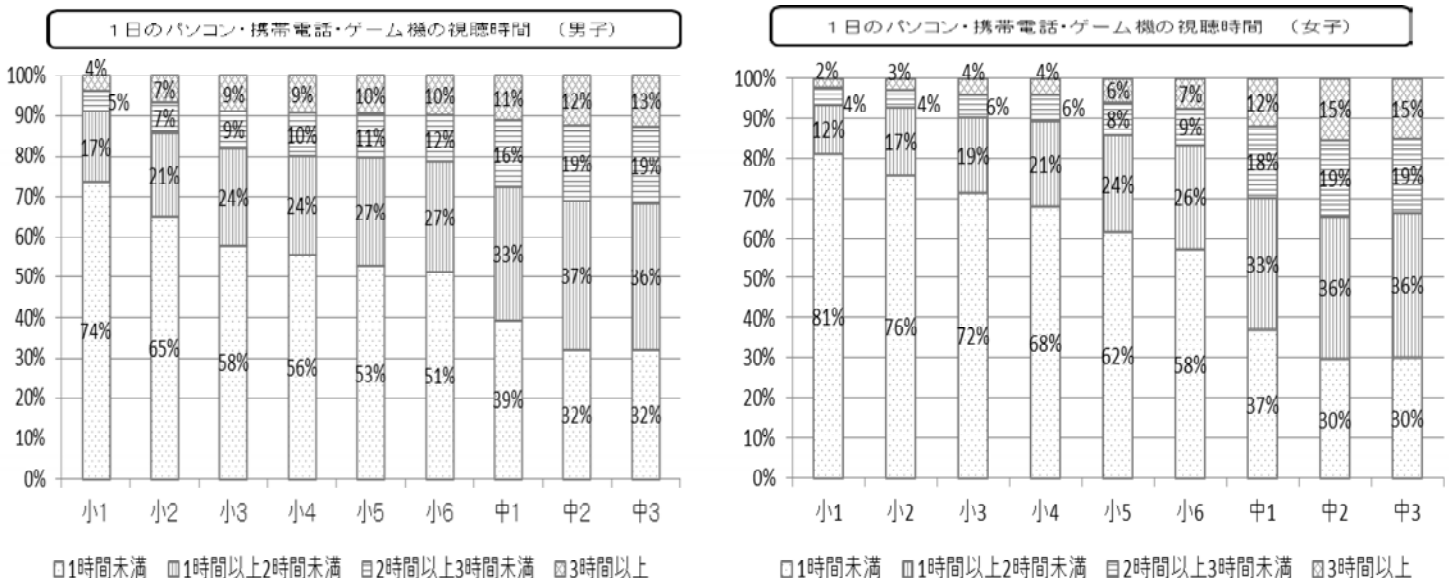
○ 朝食の摂取状況、1日の睡眠時間

全国平均と比較して、「早寝・早起き・朝ご飯」などの好ましい生活習慣が定着している児童生徒が多い。

朝食喫食率(小学校5年)				1日の睡眠時間(小学校5年)			
		毎日食べる	時々食べる	まったく食べない	8時間以上	6時間以上8時間未満	6時間未満
男子	横浜市	91.3%	7.8%	0.9%	58.0%	35.6%	6.4%
	全国	89.7%	9.5%	0.8%	54.5%	39.4%	6.1%
女子	横浜市	92.0%	7.3%	0.7%	60.6%	34.9%	4.5%
	全国	91.4%	8.2%	0.5%	56.9%	39.2%	3.8%

○ 1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間

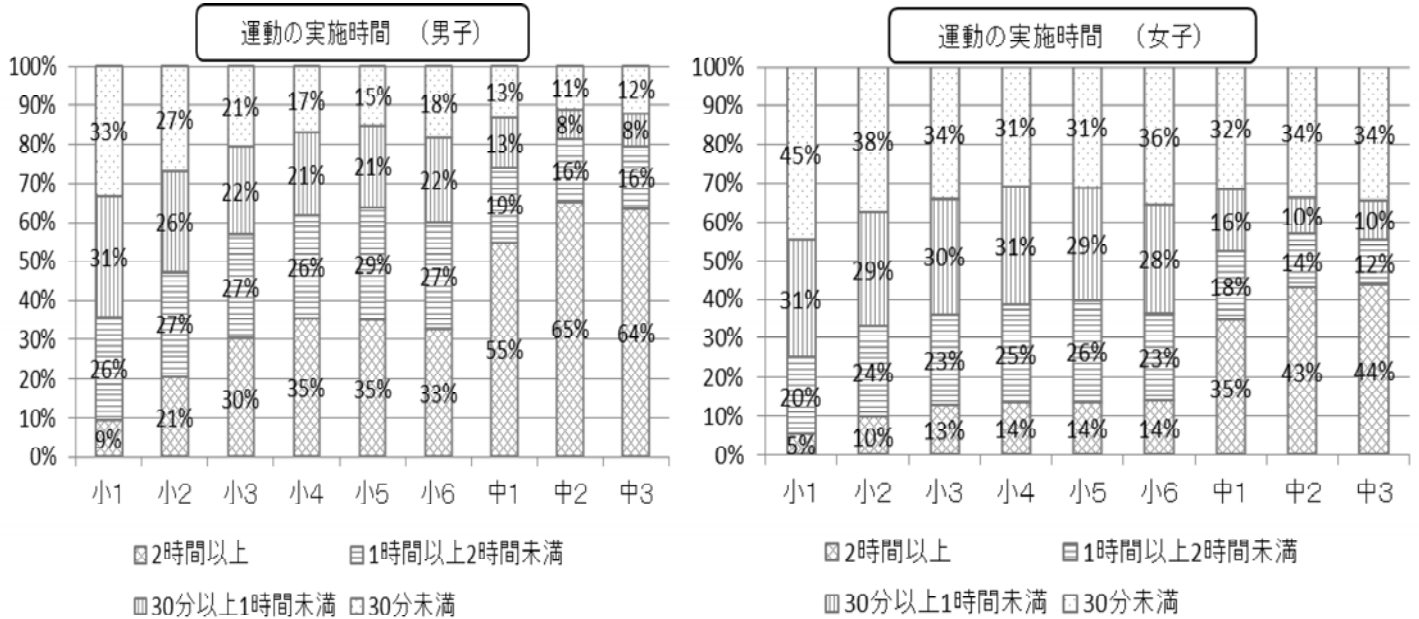
男子のパソコン等の視聴時間については、**男女とも学年が進むに従い増加傾向**にある。



○ 運動の実施時間

男子では、学年が進むに従い運動実施時間が増加する。

一方で、女子では小学校で「2時間以上」の児童は15%以下だが、中学2・3年生になると40%以上に増え、「30分未満」の生徒も30%以上となる。特に、女子の運動実施時間の二極化が見られる。



3 今後の取組

- ・ 「体力向上1校1実践運動」の指標を各学校が設定する。
- ・ 新体力テスト集計プログラムを全小学校に配付する。
- ・ 「体育・健康プラン」に基づき、学校・家庭・地域と連携する。

調査の概要

1 調査の名称

平成25年度横浜市立小中学校児童生徒体力・運動能力調査

2 実施対象

市立小中学校全校児童生徒（約27万人）対象（平成25年4月～7月実施）

3 調査項目

○体格

身長、体重、座高

○新体力テスト

握力、上体起こし、長座体前屈、20mシャトルラン*（中学校は持久走との選択）、50m走、反復横跳び、立ち幅跳び、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）

○生活実態調査

運動部や地域スポーツクラブへの所属状況、運動やスポーツの実施状況、

1日の運動・スポーツの実施時間、朝食の摂取状況、1日の睡眠時間

1日のテレビの視聴時間、1日のパソコン・携帯電話・ゲーム機の視聴時間

4 データ抽出 小中学校 各学年 男女各20名ずつ（約3割）

小学生男子 38,142名、小学生女子 38,128名

中学生男子 7,876名、中学生女子 7,911名



上体起こし



長座体前屈

* 20mシャトルラン：時間制限がある中で、20m間隔の線の間を往復した回数

【参考】

新体力テスト 種目別平均値

項目		小1 (6歳)	小2 (7歳)	小3 (8歳)	小4 (9歳)	小5 (10歳)	小6 (11歳)	中1 (12歳)	中2 (13歳)	中3 (14歳)		
男子	握力 (kg)	横浜市	25年	8.68	10.50	12.34	14.33	16.40	18.96	23.33	28.84	34.01
			24年	8.59	10.44	12.55	14.50	16.45	19.13	23.72	29.12	34.16
		全国	24年	9.39	11.14	12.80	14.63	16.92	19.84	24.71	30.62	35.66
	上体起こし (回)	横浜市	25年	11.40	13.73	15.79	18.15	19.88	21.47	23.13	27.59	29.39
			24年	10.90	13.77	15.95	18.12	19.94	21.38	23.27	27.17	29.37
		全国	24年	11.50	14.15	15.96	17.83	20.28	22.29	24.48	27.79	29.89
	長座体前屈 (cm)	横浜市	25年	26.00	27.79	29.29	31.16	33.09	34.23	38.74	41.59	45.02
			24年	25.60	27.32	29.18	30.59	33.22	34.38	38.40	42.32	45.22
		全国	24年	25.93	27.35	29.19	30.83	33.43	35.37	39.23	43.91	46.95
	反復横跳び (点)	横浜市	25年	25.09	27.92	31.40	35.28	39.37	42.69	47.08	50.74	52.83
			24年	25.14	28.53	31.67	35.90	39.93	43.12	46.94	50.34	52.70
		全国	24年	27.17	31.32	35.24	38.62	43.11	45.86	49.38	52.72	55.19
	20mシャトルラン (回)	横浜市	25年	15.99	25.23	35.18	43.92	51.11	59.07	67.38	86.80	94.09
			24年	15.66	25.16	34.64	42.94	51.99	58.79	67.26	86.69	92.28
		全国	24年	18.46	28.17	38.06	46.84	54.70	64.28	71.98	87.67	95.70
	持久走 (秒)	横浜市	25年						431.58	391.04	383.82	
			24年						430.35	388.26	382.62	
		全国	24年						412.29	381.19	364.06	
50m走 (秒)	横浜市	25年	11.65	10.73	10.11	9.69	9.30	8.98	8.61	8.08	7.68	
		24年	11.72	10.70	10.10	9.63	9.28	8.95	8.59	8.08	7.65	
	全国	24年	11.49	10.62	10.05	9.59	9.23	8.81	8.49	7.89	7.50	
立ち幅跳び (cm)	横浜市	25年	112.18	123.08	132.07	140.94	151.23	159.37	174.74	190.89	205.08	
		24年	110.98	122.17	133.36	142.54	151.44	160.39	176.50	191.06	204.10	
	全国	24年	113.97	125.55	137.92	145.62	156.50	165.13	181.99	199.27	213.85	
小学生 ソフトボール投げ 中学生 ハンドボール投げ (m)	横浜市	25年	8.13	11.50	15.16	19.12	22.87	26.29	17.61	20.48	22.99	
		24年	8.07	11.45	15.46	19.15	23.28	26.96	17.85	20.63	23.05	
	全国	24年	8.78	12.26	16.48	20.41	24.86	29.58	18.55	21.49	23.93	
女子	握力 (kg)	横浜市	25年	7.92	9.72	11.37	13.31	15.53	18.06	21.07	23.44	24.94
			24年	7.87	9.70	11.54	13.47	15.59	18.32	21.32	23.72	24.95
		全国	24年	8.79	10.34	12.12	14.02	16.28	19.27	22.06	24.42	25.63
	上体起こし (回)	横浜市	25年	10.72	13.13	14.89	16.96	18.23	19.34	19.54	22.48	23.69
			24年	10.37	12.99	15.03	16.67	18.40	19.30	19.46	22.38	23.51
		全国	24年	10.95	13.73	15.25	16.75	18.36	20.21	20.51	23.52	24.23
	長座体前屈 (cm)	横浜市	25年	28.60	30.71	32.73	35.13	37.45	38.61	41.76	43.16	45.18
			24年	28.14	30.20	32.53	34.48	37.10	39.41	42.35	43.93	45.16
		全国	24年	28.53	30.27	32.61	34.80	37.23	39.51	42.23	44.57	46.26
	反復横跳び (点)	横浜市	25年	23.80	26.30	29.41	32.89	36.42	39.12	41.89	44.54	45.73
			24年	23.94	27.07	29.66	33.17	36.71	39.62	42.45	44.44	45.60
		全国	24年	26.25	30.00	33.57	37.13	39.74	42.98	44.45	46.76	47.36
	20mシャトルラン (回)	横浜市	25年	13.19	18.62	24.05	30.67	36.33	42.17	45.68	56.14	58.32
			24年	12.93	18.49	23.93	29.60	36.70	42.65	45.65	56.43	56.87
		全国	24年	15.33	22.63	28.12	35.62	41.02	49.07	51.94	61.23	60.08
	持久走 (秒)	横浜市	25年							318.51	298.78	298.01
			24年							317.16	296.87	301.14
		全国	24年							302.23	284.33	287.47
50m走 (秒)	横浜市	25年	12.04	11.10	10.48	10.02	9.65	9.33	9.20	8.94	8.86	
		24年	12.09	11.06	10.48	10.00	9.65	9.29	9.18	8.91	8.81	
	全国	24年	11.83	10.91	10.42	9.89	9.58	9.13	9.08	8.73	8.66	
立ち幅跳び (cm)	横浜市	25年	104.17	114.08	123.45	132.15	139.87	148.06	155.86	162.17	167.23	
		24年	102.82	113.74	124.66	132.82	141.48	149.27	157.42	163.13	167.04	
	全国	24年	106.37	119.42	129.42	138.30	146.77	155.64	164.25	171.74	173.90	
小学生 ソフトボール投げ 中学生 ハンドボール投げ (m)	横浜市	25年	5.48	7.18	8.87	10.86	12.66	14.17	10.61	11.94	13.03	
		24年	5.51	7.19	9.09	10.88	12.65	14.33	10.75	12.18	13.21	
	全国	24年	5.80	8.14	9.89	12.10	14.58	17.41	11.85	13.56	14.29	

※上体起こし、長座体前屈、20mシャトルランでは、多くの学年が前年を上回っている。

※握力、ボール投げでは、多くの学年が前年を下回っている。

お問合せ先

教育委員会事務局指導企画課長 上條 慶昭 Tel 045-671-3233

学校開放事業について

1 趣旨

- ・横浜市为学校開放事業とは、生涯学習の振興を目的に、学校教育や部活動に支障のない範囲で、市立学校施設を身近な文化・スポーツ活動の場として、地域に開放するもの。
- ・運営に関しては、登録団体や地域の方々をメンバーとした「文化・スポーツクラブ」を学校単位に組織し、学校開放利用者が、単に学校施設を借りる立場にとどまらず、運営に必要な諸経費負担を含め、自主・自立的に運営。

2 利用状況

(1) 学校開放事業実績（平成 25 年度末時点）

	開放校数(単位:校)			全学校数 (単位:校)
	校庭・ 体育館等	校庭夜間	音楽室等 特別教室	
小学校	341	1	42	342
中学校	142	21	32	147
高校	-	-	1	9
特別支援学校	5	-	2	12
合計	488	22	77	510

※一校あたりの平均登録団体数：15 団体

(2) 施設別 主な利用種目

校庭	野球、ソフトボール、サッカー、フットサル
体育館	バレーボール、バスケットボール、バドミントン
武道場	空手、剣道、柔道
音楽室等 特別教室	コーラス・合唱、マーチングバンド



概要版

横浜市スポーツ推進計画

～スポーツで育む地域とくらし～

平成25年3月
横浜市



策定の目的

スポーツを通じて、子どもから高齢者まで全ての市民がいきいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かなくらしができるよう、市民の多様化するニーズを把握し、子どもの体力向上や市民の健康づくり、また、大規模スポーツイベントを開催することによる横浜の発信力の強化や地域の活性化などに取り組む必要があります。

そのために、横浜市の現状や課題を踏まえつつ、横浜の置かれた特性を生かしながら、スポーツ振興の方向性を体系的に示し、スポーツ施策をより一層効果的・効率的に推進していくことを目的として、新たなスポーツ推進計画を策定しました。

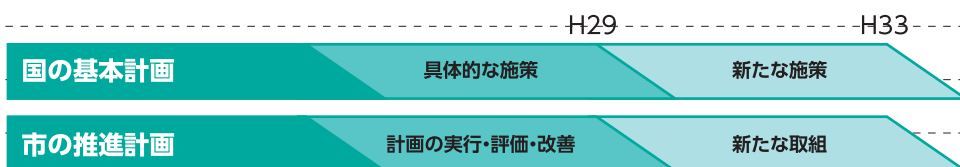
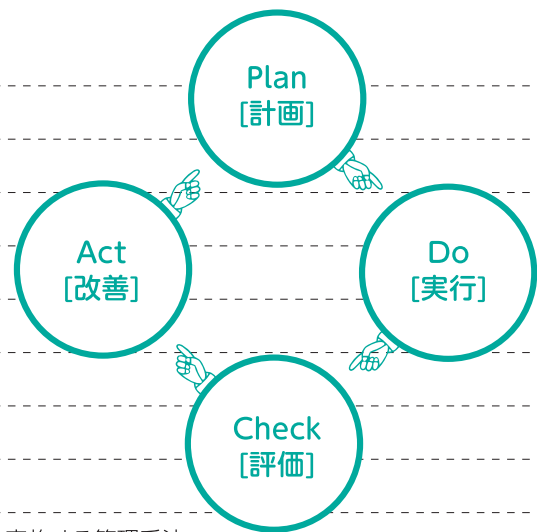
計画の期間及び進捗管理

横浜市スポーツ推進計画の計画期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とします。

なお、横浜市スポーツ推進計画は、計画の進捗状況、社会経済情勢、国の政策動向等の変化に対応するため、策定後5年を目処に中間見直しを行います。

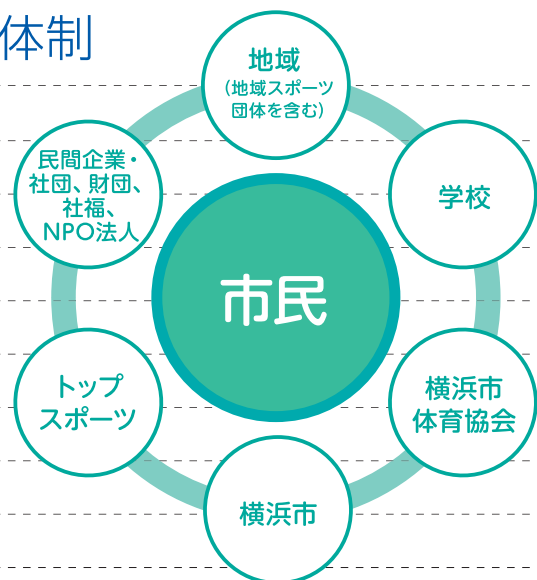
また、横浜市スポーツ推進計画の目標の実現に向けて、PDC Aサイクル（※）を導入し、定期的に評価結果を市民に公表していきます。

※Plan（計画）－Do（実行）－Check（評価）－Act（改善）を順に実施する管理手法



計画の実現に向けた連携・協働体制

横浜市スポーツ推進計画で定めている目標は、行政だけでは、到底、達成することはできません。市民の皆様をはじめ、地域、学校、民間企業、社団法人、財団法人、社会福祉法人、NPO法人、トップスポーツ、横浜市体育協会及び横浜市が、それぞれの役割や責任を踏まえ、連携・協働して、計画の実現を目指します。



1 市民(地域)のスポーツ活動

現状: ①スポーツ実施率54.5%(全国45.3%)
 ②スポーツを行う理由「健康・体力の増進」が1位
 (64.5%)

課題: ①身近な場所でスポーツができる環境の確保
 ②スポーツボランティアの確保

2 子どもの体力

現状: ①昭和60年頃と比べて低い
 ②全国と比べても全体的に低い
 課題: ①スポーツをしない子ども達に対する啓発や取組
 ②部活動の顧問の確保、専門的な技術指導のできる
 教員の不足

3 高齢者のスポーツ

現状: ①市民の約5人に1人が65歳以上
 ②スポーツ実施率が他の世代に比べ高い(55.2%)
 課題: ①高齢者率が高くなっていく中で、健康づくりや
 介護予防等の様々なニーズに対応
 ②100万人の健康づくりの推進

4 障害者のスポーツ

現状: スポーツ・芸術活動に参加している割合が低い(40.5%)
 課題: ①障害者スポーツを指導できる人材の確保
 ②身近な場所でスポーツができる環境の確保

5 スポーツ施設

現状: 市民大会や全国規模の大会を開催できる屋内スポーツ
 施設の不足
 課題: ①日産スタジアムをはじめとした大規模スポーツ施設等
 の市民開放
 ②大規模屋内スポーツ施設整備の検討

6 大規模スポーツイベント

現状: 国際的なスポーツイベントの開催が期待されている(47.8%)
 課題: 公的負担に頼らない財源の確保(協賛金や放映料等)

7 プロスポーツチーム

現状: スタジアムや体育館等でスポーツを観戦していない市民
 の割合 (58.4%)
 課題: プロスポーツチームと連携した地域・学校等のスポーツ
 振興機会の増加



横浜DeNAベイスターズ

横浜F・マリノス

横浜FC

横浜ビー・コルセアーズ

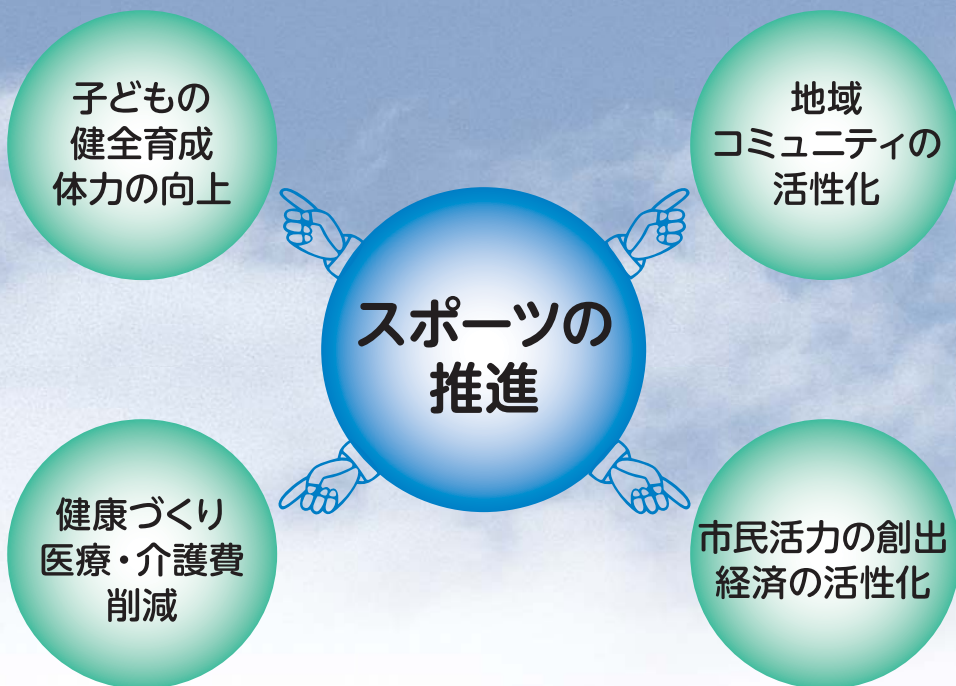


1 スポーツ推進の意義

スポーツを推進することは、子どもの心身の健全育成や体力の向上、生活習慣病予防による医療・介護費の削減の効果があります。

少子高齢化の進展や、生活が便利になることにより体を動かす機会が減少している現代社会において、生涯にわたりスポーツに親しむことは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応えるとともに、爽快感、達成感等の精神的充足や楽しさ、喜びをもたらします。

また、スポーツを通じたまちづくりや村おこしに取り組んでいる都市もあるなど、スポーツには、地域コミュニティの活性化や市民活力の創出、地域経済の活性化等の効果も期待されています。



2 スポーツ推進の基本目標

横浜市スポーツ推進計画は、スポーツを通じて、子どもから高齢者まですべての市民がいいきとした生活を送るとともに、地域住民の交流や心豊かな暮らしを育むことを目指します。

その際、スポーツを実際に「する人」だけではなく、トップレベルの

競技大会やプロスポーツの観戦等のスポーツを「観る人」、そして指導者やスポーツボランティアといった「支える（育てる）人」にも着目し、市民が生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境を整えます。

目標1 子どもの体力向上方策の推進

【目標値】

子どもの体力を横浜市の昭和60年頃の体力水準に回復します。

目標2 地域スポーツの振興

【目標値】

成人の週1回以上のスポーツ実施率が65パーセント程度（3人に2人）、週3回以上のスポーツ実施率が30パーセント程度（3人に1人）となることを目標とします。

また、スポーツボランティアを行ったことがある市民の割合を10パーセント以上となることを目標とします。

目標3 高齢者・障害者スポーツの推進

【目標値】

65歳以上の週1回以上のスポーツ実施率が70パーセント程度となることを目標とします。

また、地域において自主的に障害者のスポーツ活動を行っている団体等を18区に立ち上げます。

目標4 トップスポーツとの連携・協働の推進

【目標値】

トップアスリートが参加するスポーツ大会やプロスポーツを間近で観戦した市民の割合を50パーセント以上となることを目標とし、市民がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツを行う意欲の向上につなげます。



スポーツを推進するための具体的な取組

目標1 子どもの体力向上方策の推進

取組1 幼児期における運動習慣の啓発・普及活動

体力の重要性に関する保護者の啓発セミナーや親子で体験できる各種運動プログラム等を実施します。

また、保育所や幼稚園にスポーツ指導者等を派遣し、遊びながら体を動かす楽しさを子どもたちに伝えていく事業を実施します。

取組2 横浜市子どもの体力向上プログラムに基づく取組の実践

平成23年3月に横浜市教育委員会で策定された「横浜市子どもの体力向上プログラム」に基づき、学校・家庭・地域の連携による体力向上に向けた取組を実践推進していきます。(このプログラムは、生活習慣、運動習慣の改善を図るなど、運動に親しみ、自らの健やかな体をつくる子どもの育成に向けた取組を示している。)

平成24年度から、市内小中学校全校で体育・健康に関する指導の全体計画である「体育・健康プラン」を作成し、そのプランに基づき、学校の特色を生かした「体力向上1校1実践運動」を実施しています。

取組3 子どもの体力向上事業の実施及び拡充

中休みや放課後等を活用して、児童が関心を持てる運動やスポーツを紹介し、定期的に運動に親しむ機会や必要な用具等を提供(貸与)し、児童が主体的、日常的に体を動かすことのできる「いきいきキッズ事業」を拡充し、引き続き実施していきます。

また、地元の大学と連携し、学校や地域に体育部所属の学生等を派遣し、授業の補助や教室事業等を実施します。

取組4 放課後児童育成事業へのプログラム協力

放課後、土曜日、長期休み等に実施している放課後児童育成事業に、地域のスポーツ指導者の派遣やプログラムを提供することにより、児童が運動に親しむ機会を増やし、運動の楽しさや関心を深めます。

取組5 学校体育施設(校庭、体育館等)を利用した学校開放事業へのプログラム協力

学校開放事業は、学校体育施設を利用し、子どもや地域住民が身近にスポーツを親しめる場となっています。そこで、学校開放事業の運営主体である文化・スポーツクラブに対し、放課後や土・日、長期休み等に地域のスポーツ指導者の派遣やプログラムを提供することにより、子どもや初心者でも気軽に参加できる仕組みをつくります。

また、地域と連携することにより、学校体育施設の利用を促進し、スポーツを通じて地域に開かれた学校づくりを目指していきます。

取組6 地域スポーツ指導者の養成と活用

地域のスポーツ振興のために活動できる人材を養成する「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」を実施します。

また、「横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座」の終了者や現場で活躍している地域のスポーツ指導者に対しても、それぞれのニーズに応じた指導内容や方法などの研修を充実し、ニーズに応じた指導者を紹介するシステムの活用を促進します。

取組7 食育の推進

日常生活をより健康的に送り、スポーツを活発に行うために、スポーツ団体(プロスポーツチームを含む)、教育委員会や食育関係団体と連携・協力しながら、子どもや保護者及び指導者等に食育の普及啓発を行っていきます。

取組8 トップアスリート等との連携・協力の推進

JOCパートナー都市協定を通じてのオリンピックやプロスポーツチームあるいはトップアスリートが立ち上げたNPO法人等と連携・協力することにより、トップアスリートを学校や地域に派遣し、子ども達や多くの市民が一流のアスリートと触れ合う機会を提供し、スポーツへの関心を高めます。

目標2 地域スポーツの振興

取組5 学校体育施設(校庭、体育館等)を利用した学校開放事業へのプログラム協力【再掲】

取組6 地域スポーツ指導者の養成と活用【再掲】

取組8 トップアスリート等との連携・協力の推進【再掲】

取組9 総合型地域スポーツクラブの啓発及び育成・活動支援

子どもから高齢者まで地域住民の誰もが、それぞれの体力や興味・技術に応じて、集い、活動することができるクラブが総合型地域スポーツクラブの基本理念です。その理念を既存の地域スポーツ団体や地域スポーツ・レクリエーション団体に理解してもらうことにより、総合型地域スポーツクラブへの協力や移行を促します。

また、総合型地域スポーツクラブの活動や趣旨について、横浜市の広報紙やホームページに掲載するほか、啓発イベント等を行い、市民への周知を充実させていきます。

なお、総合型地域スポーツクラブの設立希望者(団体)や総合型地域スポーツクラブへの移行を目指している既存のスポーツ団体(プロスポーツチームを含む)に対しては、クラブの設立や運営に有用な情報の提供、活動内容についてのアドバイス等を行い、設立に向けた育成支援を行います。

さらに、すでに設立されているクラブに対しては、運営の助言や情報提供等を行い、安定的な活動が行えるよう支援します。

取組10 総合型地域スポーツクラブ間の連携・協力の促進

設立されたクラブ及び設立準備中のクラブに対し、会員の拡大や運営費の確保等の共通の課題の解決を目的とした、「横浜市総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」への加入を促し、クラブ間の連携・協力を促進します。

取組11 地域スポーツ団体や地域スポーツ・レクリエーション団体との連携

地域でそれぞれが活動している地域スポーツ団体や地域スポーツ・レクリエーション団体と連携・協力し、年齢や性別、技術等に関係なく、誰でも気軽に参加できるスポーツイベントが開催できる環境を整えます。

取組
12

市民参加型スポーツイベントの充実

横浜マラソン大会やスポーツ・レクリエーションフェスティバル、市民体育大会など、市民が気軽に参加でき、日頃の練習の成果を発揮する機会となる市民参加型スポーツイベントの充実を図ります。

取組
13

スポーツ・レクリエーション活動の充実

地域スポーツ・レクリエーション団体と連携し、子どもから高齢者まで、楽しく、気軽に参加できるウォーキングイベントや親子ふれあい体操、野外活動等のスポーツ・レクリエーション活動の充実を図ります。
また、おすすめのウォーキングコースをホームページや情報誌で紹介していきます。

取組
14

市民大会・区民大会の定期的な開催 (初心者が参加できる工夫)

市民大会や区民大会を実施している競技団体と連携しながら、初心者が安心して参加できる環境を整えます。

取組
15

スポーツ推進委員の育成・活用

スポーツ推進委員が、地域スポーツ団体と連携・協力し、地域スポーツの企画・立案等のコーディネートなど、総合的な地域スポーツの推進役を担えるよう、研修等の充実を図っていきます。

取組
16

スポーツボランティアの支援

スポーツイベント等の運営を支えてくれるスポーツボランティアを育成・支援します。
また、スポーツボランティアが継続的な活動をできる仕組みや、ボランティアとしての功績を称える環境を整えます。

取組
17

スポーツ情報等の提供

市民が「する」「観る」「支える」といった様々なスポーツ活動に参加しやすくなるよう、スポーツイベントの開催情報やスポーツボランティアに関する情報、スポーツ指導者、スポーツ施設の利用に関する情報等を横浜市のホームページや広報紙、または、横浜市体育協会のスポーツ情報サイト「ハマスポどっとコム」やホームページ等を通じて提供します。
また、携帯端末等の身近な媒体でも情報が提供できるようにしていきます。

取組
18

スポーツ実施率の低い年齢層に向けた スポーツプログラムの充実

スポーツ団体と連携し、比較的スポーツ実施率の低い年齢層(20歳代、30歳代)向けに、シェイプアップやリズムダンス、ジョギング講習会などのスポーツプログラムや教室を開催していきます。
また、スポーツに親しむことができ、低い年齢層同士の交流や心の癒しを取り入れたプログラムを研究・提供していきます。

取組
19

身近なスポーツを行う場の確保

身近なスポーツの場の確保に向けて、廃校となった学校施設の跡地や既存の公共スポーツ施設または、本来の目的に支障のない範囲で、市有地の未利用地、遊水地等の有効活用を図ります。

取組
20

大規模屋内スポーツ施設 (スケート場、武道館等)の再整備

横浜文化体育館の再整備は、関内・関外地区の街づくりを進める中で、検討します。その際、武道を行うことのできる環境整備の検討を進めます。
また、老朽化した神奈川スケートリンクの再整備に向け、横浜市としてどのような支援ができるのか、検討を進めます。

取組
21

スポーツ遺産の保存・活用

横浜はテニス、ラグビー、競馬等、多くのスポーツ文化の発祥の地であり、その歴史や伝統を継承していきます。
また、ワールドカップサッカー決勝戦の会場となった日産スタジアム等のスポーツ施設やボランティア等の人的資源、大規模スポーツイベントの運営知識やノウハウなどのスポーツ遺産を未来の横浜の子どもたちへの財産として残します。

取組
22

横浜市スポーツ医科学センターとの連携・活用

横浜市スポーツ医科学センターを活用し、スポーツ事故の防止及びスポーツ障害の予防・早期発見に関する知識の普及・啓発を指導者向けに行います。
また、横浜市スポーツ医科学センターと各区スポーツセンターが連携・協力することにより、スポーツによる市民の健康づくりの推進や、競技選手の競技力の向上を図ります。

取組
23

国際交流事業の実施

横浜市のパートナー都市や姉妹都市等でスポーツを通して、相互理解を深め、友好親善を図ることを目的とした国際交流事業を実施します。

目標3

高齢者・障害者スポーツの推進

取組
6

地域スポーツ指導者の養成と活用 【再掲】

取組
13

スポーツ・レクリエーション活動の充実 【再掲】

取組
24

100万人の健康づくり戦略の推進

「歩く」をテーマに、市民の健康行動の習慣化を図る取組として、健康づくりに関するイベントなどに参加するとポイントが貯まるなどの仕組みを導入し、地域スポーツ団体等とも連携しながら、壮年期から高齢者に至るまで、市民一人ひとりが気軽に楽しみながら継続できる取組を進めます。

取組
25

高齢者向けのスポーツ教室・イベントの実施

高齢者のニーズが高い、健康づくりや体力づくりの教室などのほかに、介護予防教室や転倒骨折予防教室など様々なニーズを考慮しながら、高齢者のスポーツ教室やスポーツイベントのより一層の充実を図ります。

取組
26

地域の高齢者サークルの活動支援

各施設や地域で現在も活動している高齢者のスポーツサークルに対し、その活動が充実するよう、スポーツ指導者の紹介やスポーツボランティアに関する情報等を提供していきます。

取組
27

地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透

「障害者スポーツ文化センター横浜ラポール」と協力・連携し、各区のスポーツセンターやスポーツ施設の職員等に、定期的(年に1、2回程度)に研修を実施し、障害者スポーツの開始及び継続していくためのノウハウを浸透させていきます。

また、地域のスポーツ指導者に対しては、人材養成講座を通じて、障害者のニーズや対応について、研修を行っていきます。

取組
28

障害者スポーツの場の確保と種目の普及

障害者がいつでも身近な地域で障害者スポーツを行えるようにするため、各区スポーツセンターや地区センターなどの地域資源と連携を進め、障害者スポーツを行える場を確保するとともに、自主的に取り組みやすい種目を地域に広げていきます。

取組
29

障害者団体と地域団体との連携・協力

障害者の自主的なスポーツ活動が地域に根付くように、障害者団体や地域団体とのネットワークを構築し、情報の交換や団体同士の交流を支援します。

取組
30

障害の有無に関わらず、誰もが一緒に参加できるスポーツイベントの実施

障害者・健常者が共に楽しむことができるよう、障害者団体や競技団体、地域スポーツ団体と連携しながら、誰もが安心して参加できるスポーツイベントを検討し、実施します。



目標4 トップスポーツとの連携・協働の推進

取組
8

トップアスリート等との連携・協力の推進【再掲】

取組
16

スポーツボランティアの支援【再掲】

取組
20

大規模屋内スポーツ施設(スケート場、武道館等)の再整備【再掲】

取組
21

スポーツ遺産の保存・活用【再掲】

取組
22

横浜市スポーツ医科学センターとの連携・活用【再掲】

取組
31

プロスポーツチームとの連携・協働

地元プロスポーツチームが地域に密着した活動を行えるよう、各チームの状況に合わせた支援を行います。

また、横浜熱闘倶楽部を通じて、学校や地域にプロのトップアスリートやコーチを招き、技術指導や講演会を行い、市民が直接プロのチームに触れる機会を提供し、夢や感動を共有します。さらに、横浜市内において、プロスポーツチームと連携し、チームの活動や試合日程等の広報活動を充実させ、市民のスポーツへの関心を高めます。

取組
32

地域スポーツコミッション設立の検討

スポーツを横浜の観光資源とした横浜らしい地域づくりを図るため、トップスポーツチームや地域スポーツ団体及び地元企業等と連携・協働し、地域スポーツコミッションの設立を検討します。

また、地域や経済の活性化を目的としたスポーツツーリズムの推進やスポーツイベントの誘致・開催を行い、横浜の魅力を発信していきます。

取組
33

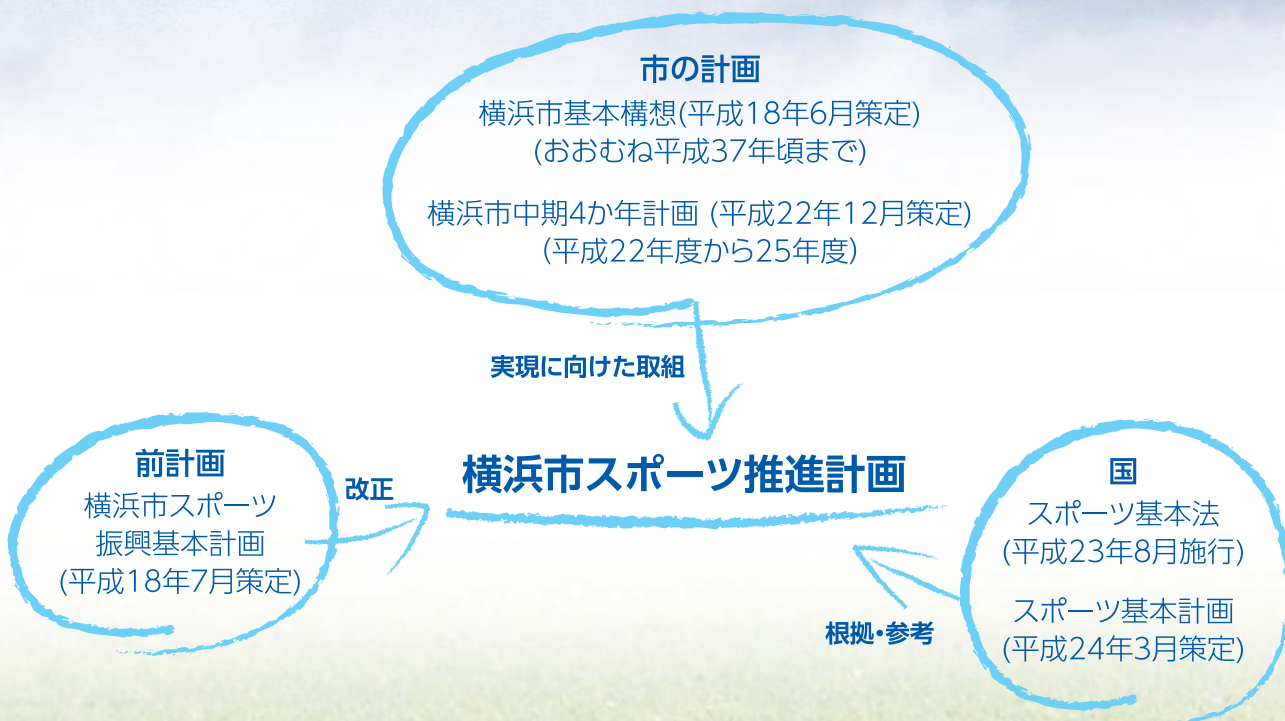
大規模スポーツイベントの誘致・開催

国際大会や全国大会などの大規模イベントの誘致に取り組み、市民のスポーツ観戦やボランティア活動に参加する機会を増やします。

また、魅力的な大規模イベントを誘致・開催することにより、世界や全国に向けた横浜の知名度のアップや、経済及び地域の活性化などにも貢献していきます。

1 計画の位置づけ

- (1) 横浜市スポーツ推進計画は、横浜市の将来の都市像を示す「横浜市基本構想」(長期ビジョン)及び「横浜市中期4か年計画(施策13 スポーツや学びで育む豊かなくらし)」(計画期間:平成22年度～平成25年度)に掲げている目指すべき都市像の実現に向け、スポーツに関する施策について、具体的な取組を示した計画です。
- (2) 横浜市スポーツ推進計画は、平成18年7月に策定した横浜市スポーツ振興基本計画「いきいきスポーツプラン2010」を改正し、平成23年8月に施行された「スポーツ基本法」に基づき、国の「スポーツ基本計画」を参考に策定します。
- (3) 横浜市スポーツ推進計画は、第22期横浜市スポーツ推進審議会の意見をもとに作成し、市民の皆様やスポーツ団体等からも意見をいただき、策定しました。



2 横浜市スポーツ推進計画 ～スポーツで育む地域とくらし～

- (1) 策定：平成25年3月
- (2) お問い合わせ先

横浜市市民局スポーツ振興課

〒231-0017 横浜市中区港町1丁目1番地
TEL：045-671-3287 FAX：045-664-0669
URL：<http://www.city.yokohama.lg.jp/shimin/sports/>

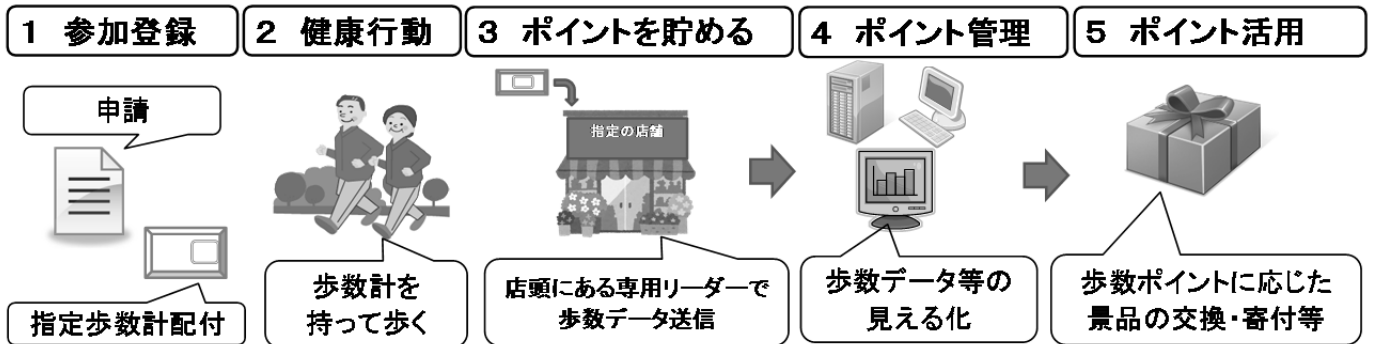


よこはまウォーキングポイント事業概要

よこはまウォーキングポイント事業は、日常生活の中でウォーキングによる健康づくりに取り組んでいただく事業です。40 歳以上の市民の方であれば、参加登録申請をすることでどなたでも参加することができます。

参加者の方は送付された指定歩数計を使用し、市内店舗等に設置された専用リーダーに歩数計をかざすことでポイントをためることができ、たまったポイントは景品の交換や寄付等に活用できるため、楽しみながら健康づくりに取り組むことができます。

〈事業イメージ図〉



1 共同事業者が担う主な役割

今後本市と締結する協定に基づき、共同事業者は次の事業を行います。

- (1) 歩数計の供給（歩数計代は本市負担）
- (2) 専用リーダーの設置店舗の確保・管理
- (3) 市民が利用する公式ホームページの設置等、システムの開発・運用（開発費は本市負担）
- (4) 参加者が継続して楽しめるような仕組み（歩数ポイントに応じた景品の交換・寄付等）の提供

2 参加登録目標数

	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度
新規登録者数	5 万人	10 万人	10 万人	5 万人
登録者総数	5 万人	15 万人	25 万人	30 万人

3 今後の予定

- 7 月上旬 協定締結（協定期間：締結日から平成 30 年 3 月 31 日まで）
- 9 月 市民からの事前申込み受付開始
- 10 月 事前申込みされた市民へ歩数計を送付
- 11 月 事業開始

元気づくりステーション事業

1 概要

高齢者が、主体的・継続的に介護予防に取り組む「グループ活動」を広める事業です。身近な場所で、「楽しく」「仲間と」「続ける」ことで健康づくり・介護予防に取り組めます。

2 グループ活動

(1) 活動内容

体操、ウォーキング、認知症の予防に関することなど様々な活動
(例) 公園ウォーキングの会、サロンでの体操 など

(2) 活動頻度

月 1 回～週 1 回程度 (定期的に継続的に活動できるよう支援します。)

(3) 対象者

おおむね 65 歳以上の方 10 人程度から
※65 歳未満で活動に興味のある方、意欲のある方、グループの支援をされる方も参加可能

(4) 活動場所

公園、町内会館、民間のスペースなど

(5) グループ数

平成 26 年 6 月 30 日現在 119 グループ (3,731 人)

3 区役所・地域包括支援センターが行うこと

(1) 地域、区域のアセスメント(地区診断)

- ア 高齢者の健康課題の明確化や課題解決策の検討を行います。
- イ 地域の特性を活かしてグループ活動を広げます。

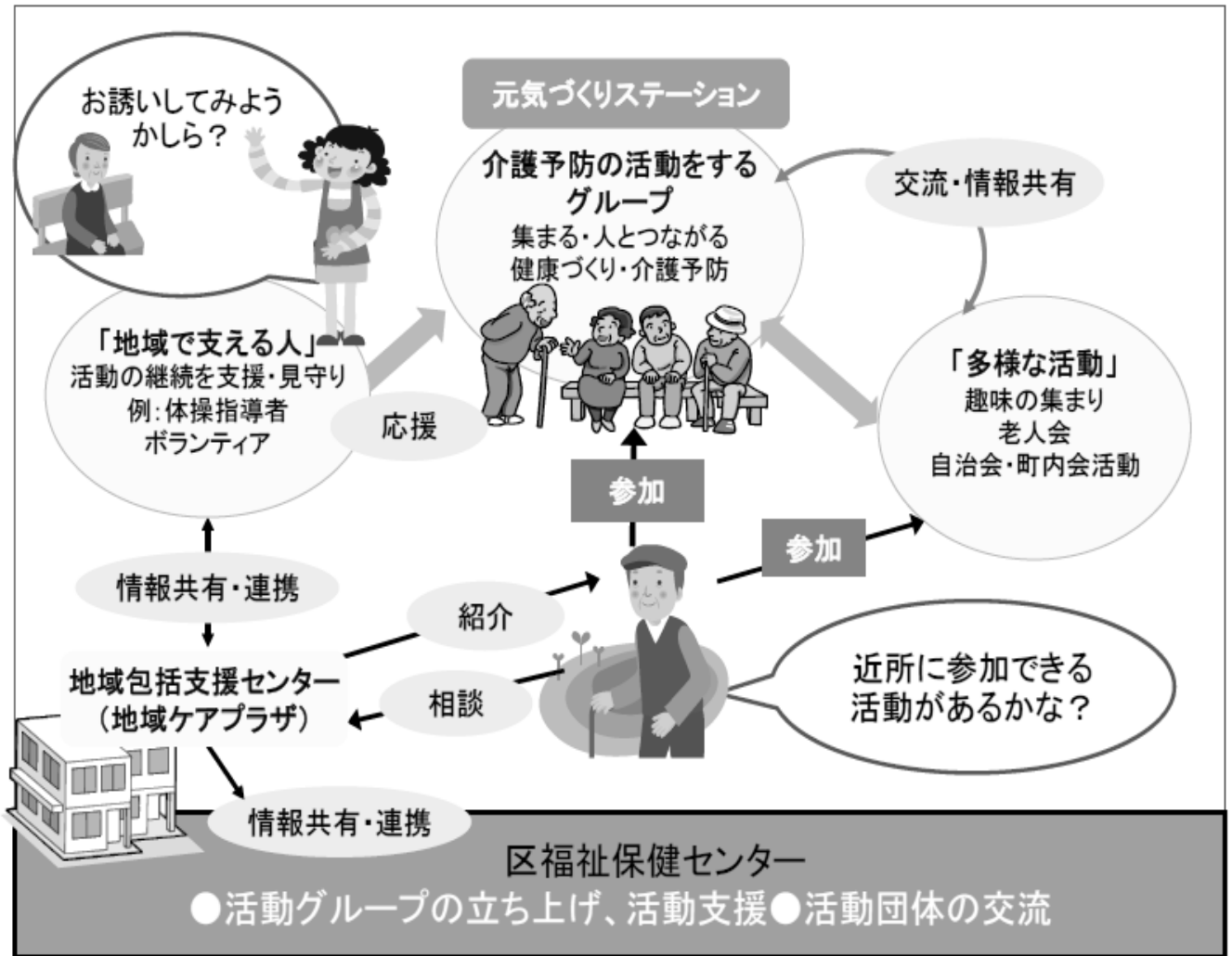
(2) 活動の立ち上げ・グループ活動への支援

グループの活動状況に応じて、必要な支援を行います。
(講師派遣、教材提供、運営相談等)

(3) 人材の育成

- ア 活動を支える人材の育成
- イ 養成したボランティア等の新たな活動の場の提供

「元気づくりステーション」イメージ図



障害者スポーツの推進

1 横浜市スポーツ推進計画の取組状況

【取組 27】 地域への障害者スポーツに関するノウハウの浸透

- ◆各区スポーツセンター等の職員への定期的な研修
- ◆地域のスポーツ指導者への人材養成講座（障害者のニーズや対応）
 - ・初級障害者スポーツ指導員養成講座 4回（53人）
 - ・ステップアップ研修会 2回（48人）
 - ・身近な地域における活動団体への講師派遣 4回（106人）
 - ・障害者スポーツボランティア養成入門講座 10回（62人）

【取組 28】 障害者スポーツの場の確保と種目の普及

- ◆各区スポーツセンターや地区センターなど地域資源と連携した「場」の確保
- ◆地域で自主的に取り組みやすい種目の普及
 - ・地域におけるスポーツ教室 93回（1,809人）
 - ・地域の自主活動グループ（サークル）への支援 60回（1,218人）
 - ・介護予防系プログラム 4回（263人）
 - ・地域のボランティア対象の研修 1回（70人）

【取組 29】 障害者団体と地域団体との連携・協力

- ◆障害者団体や地域団体とのネットワークの構築（情報交換・団体同士の交流）
 - ・区内ネットワークの構築支援
（関係機関等との定期的な連絡会開催：5区（鶴見、旭、金沢、戸塚、瀬谷））

2 横浜市障害者スポーツ文化センター 横浜ラポールの運営

- ・横浜市における障害者のスポーツ及び文化活動等を推進する中核施設として設置
- ・障害者スポーツに関しては、初心者に重点を置く「スポーツ人口の拡大」とスポーツを通した「自立支援」を中心とした事業を実施
- ・医療と連携したリハビリテーションスポーツに関する相談指導
- ・横浜市障害者スポーツ大会「ハマピック」の開催及び全国障害者スポーツ大会に向けた選手強化と派遣

【施設概要】

所在地（開設年月日）	横浜市港北区鳥山町1752番地 平成4年8月28日
施設構造・面積	地上3階地下1階（敷地面積：16,257㎡ 延床面積：28,818㎡）
スポーツ施設・設備	プール、大体育室、小体育室、フィットネス、屋外グラウンド、地下グラウンド、ボウリングルーム、テニスコート
25年度利用者数	延べ444,254人（うちスポーツ施設利用者数274,126人）